

被けん引車解体マニュアル

(タンクトレーラ編)

お願い

1. 本解体マニュアルは一般的な解体例を示し、掲載された図等は実物と異なる場合がありますのでご注意ください。
2. 木材、断熱材、FRPの解体処理については、「適正処理・再資源化協力事業者一覧表」(日本自動車車体工業会ホームページ)を参照し、適正に処理して下さい。
3. 油圧機器、コンプレッサ、発電機、配電盤等につきましたは、夫々専門の業者に処理を依頼して下さい。

平成23年10月1日

日本車輛製造株式会社 輸機・インフラ本部

本解体マニュアルに対する問い合わせは下記にお願い致します。

日本車両製造株式会社 輸機・インフラ本部技術部

TEL:0533-85-4116

FAX:0533-84-9289

1-1:リーフサスペンション式走行装置(全機種共通)

品目名		解体方法	注意事項	
事前処理Ⅰ (ガス処理)		容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。	
事前処理Ⅱ (除圧確認)		容器内の圧力が無いことを確認する。		
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。				
1	車軸 Assy	車軸本体	ブレーキチャンバ、ブレーキドラム、ハブ等以下の部品取り外す。	分解不可能の場合には、そのまま専門の産廃処理業者に依頼して下さい。
		ブレーキチャンバ	金属類とゴムに分別する。	強力なバネが内臓されているので、付属の巻き上げボルトを利用し、最新の注意を払って分解する。
		ブレーキドラム	取り外す。(金属類)	
		シューAssy	金属類と非金属に分別する。	シューは”特殊材料”で、最終処分は専門業者に委託して下さい。
		ハブ及びベアリング	金属と油脂(グリス)に分別する。	グリスは洗浄油で洗浄する。洗浄油は廃油として処理できます。
		カムシャフト	取り外す。(金属類)	
		ブッシュ・ボルト等	取り外し、材質別に分別する。	
		ABSセンサ	コネクタと電線類に分断する。	コネクタはナイロン樹脂です。
2	タイヤ及びホイール	金属(ホイール)とゴム(タイヤ)に分別する。	ホイール及びタイヤともリサイクル(中古ホイール、再生タイヤ)が可能です。分解不可能の場合には、そのまま専門の産廃処理業者に委託して下さい。	
3	リーフスプリング	取り外す。(金属類)		
4	Uボルト・ナット	取り外す。(金属類)		
5	スプリングパッド	取り外す。(金属類)		
6	トルクロッドAssy	金属類とゴム類(ブッシュ)に分別する。		
7	イコライザブラケット	取り外す。(金属類)	左右の連結パイプはガスで切断する。	
8	フロントブラケット	取り外す。(金属類)	左右の連結パイプはガスで切断する。	
9	リヤブラケット	取り外す。(金属類)	左右の連結パイプはガスで切断する。	
10	イコライザAssy	金属類と非鉄金属に分別する。		
11	ピン・ボルト類	取り外す。(金属類)		

1-2:エアサスペンション式走行装置(全機種共通)

品目名		解体方法	注意事項	
事前処理Ⅰ (ガス処理)		容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。	
事前処理Ⅱ (除圧確認)		容器内の圧力が無いことを確認する。		
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。				
1	車軸 Assy	車軸本体	ブレーキチャンバ、ブレーキドラム、ハブ等以下の部品を取り外す。	分解不可能の場合には、そのまま専門の産廃処理業者に依頼して下さい。
		ブレーキチャンバ	金属類とゴムに分別する。	強力なバネが内蔵されているので、付属の巻き上げボルトを利用し、最新の注意を払って分解する。
		ブレーキドラム	取り外す。(金属類)	
		シューAssy	金属類と非金属に分別する。	シューは”特殊材料”で、最終処分は専門業者に委託して下さい。
		ハブ及びベアリング	金属と油脂(グリス)に分別する。	グリスは洗浄油で洗浄する。洗浄油は廃油として処理できます。
		カムシャフト	取り外す。(金属類)	
		ブシュー・ボルト等	取り外し、材質別に分別する。	
		ABSセンサ	コネクタと電線類に分断する。	コネクタはナイロン樹脂です。
2	タイヤ及びホイール	金属(ホイール)とゴム(タイヤ)に分別する。	状態にもよりますが、ホイール及びタイヤともリサイクル(中古ホイール、再生タイヤ)が可能な場合もあります。状況によっては分解しないで、そのまま専門の産廃処理業者に委託して下さい。	
3	メインハンガAssy	金属類及びゴム類に分別する。		
4	トレーリングリーフAssy	取り外す。(金属類)		
5	スプリングパッド	取り外す。(金属類)		
6	Uボルト・ナット	取り外す。(金属類)		
7	ショックアブソーバAssy	金属類及びゴム類(リング等)に分別する。	高圧の不活性ガスが充填されております。基本的には専門業者に委託して下さい。	
8	エアスプリング	取り外す。(ゴム類)	ゴムは基本的にはリサイクル不可能です。	
9	ロアマウント	取り外す。(金属類)		
10	ラテラルブラケット	取り外す。(金属類)		
11	ラテラルストッパ	取り外す。(樹脂)	ラテラルストッパはナイロン樹脂です。	
12	サポートブラケット	金属類及び非鉄金属類(ブシュー)に分別する。	リフト装置付きのみに適用します。	
13	リフトサポート	取り外す。(金属類)	リフト装置付きのみに適用します。	
14	エアスプリング	取り外す。(ゴム類)	リフト装置付きのみに適用。ゴムは基本的にはリサイクル不可能です。	
15	エアスプリングマウント	取り外す。(金属類)	リフト装置付きのみに適用します。	
16	ラバーバンパ	取り外す。(ゴム類)	リフト装置付きのみに適用。ゴムは基本的にはリサイクル不可能です。	
17	ピン・ボルト類	取り外す。(金属類)		

1-3: 手動ジャッキ装置(全機種共通)

	品目名	解体方法	注意事項
	<u>事前処理 I</u> (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理 II (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	ジャッキAssy	金属類、非鉄金属類(ブシュ)及び樹脂類(パッキン)に分別する。	内筒の中のスクリュウにはグリスが塗布されております。洗浄油で洗浄して下さい。洗浄油は廃油として処理できます。
2	連結パイプ	取り外す。(金属類)	
3	ステー	取り外す。(金属類)	
4	ボルト類	取り外す。(金属類)	

1-4: 電動ジャッキ装置(全機種共通)

	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理 I (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理 II (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	ジャッキ本体	取り外し、材質別に分別する。 金属類、非鉄金属類、電動モータ、リミットスイッチ箱、電線類、ゴム類(ストッパ)、樹脂類(パッキン)等。	内筒には潤滑油が注入されております。オイルパン等で受けて下さい。潤滑油は廃油として処理出来ます。
2	電動モータ	金属類、非鉄金属類及び電線類に分別する。	基本的には専門業者に委託して下さい。
3	制御盤	金属類と樹脂類(制御機器、スイッチ、配線機器)及び電線類に分別する。	基本的には専門業者に委託して下さい。
4	リミットスイッチ箱	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
5	電気カプラ	カプラと電線を分断する。カプラは非鉄金属類とゴム類に分別する。	電線の重量、約10kg。
6	電線類	取り外す。	電線の重量、約2kg。
7	連結パイプ	取り外す。(金属類)	
8	ステー	取り外す。(金属類)	
9	ボルト類	取り外す。(金属類)	

1-5. 一般ブレーキ配管(全機種共通)

	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理Ⅰ (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理Ⅱ (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	ホースカプラ	金属類(アルミ)とゴム類に分別する。	
2	ダミー	取り外す。(ナイロン樹脂)	
3	レザー・バタンク	取り外す。(金属類)	
4	リレー エマージェンシバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(O-リング等)、樹脂類(パッキン)に分別する。	
5	リレーモジュレータ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(O-リング等)に分別する。	
6	キャブコントロールバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(O-リング等)に分別する。	
7	ゴムホース	金属類(口金)とゴムに分別する。	ゴムは基本的にはリサイクル不可能です。
8	エアホース	取り外す。(ナイロン樹脂)	ナイロン樹脂重量は約1kgです。
9	ホース継手類	非鉄金属類(銅合金)と樹脂類及びゴム類に分別する。	
10	管押さえ	金属類とゴム類に分別する。	
11	エア配管	取り外す。(銅合金)	

1-6. エアサスブレーキ配管(全機種共通)

	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理 I (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理 II (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	ホースカブラ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類に分別する。	
2	ダミー	取り外す。(ナイロン樹脂)	
3	レザー・パタンク	取り外す。(金属類)	
4	リレー エマージェンシバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)、樹脂類(パッキン)に分別する。	
5	リレーモジュレータ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
6	キャブ コントロールバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
7	ゴムホース	金属類(口金)とゴムに分別する。	ゴムは基本的にはリサイクル不可能です。
8	エアホース	取り外す。(ナイロン樹脂)	ナイロン樹脂重量は約1kgです。
9	ホース継手類	非鉄金属類(銅合金)と樹脂類及びゴム類に分別する。	
10	管押さえ	金属類とゴム類に分別する。	
11	エア配管	取り外す。(銅合金)	
12	レベリングバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
13	サブタンク	取り外す。(金属類)	リフト式アクスル装置にのみ設置。
14	チャージングバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
15	プレッシャリミットバルブ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
16	ラインフィルタ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)及び樹脂類に分別する。	

1-7. 電気配線(全機種共通)

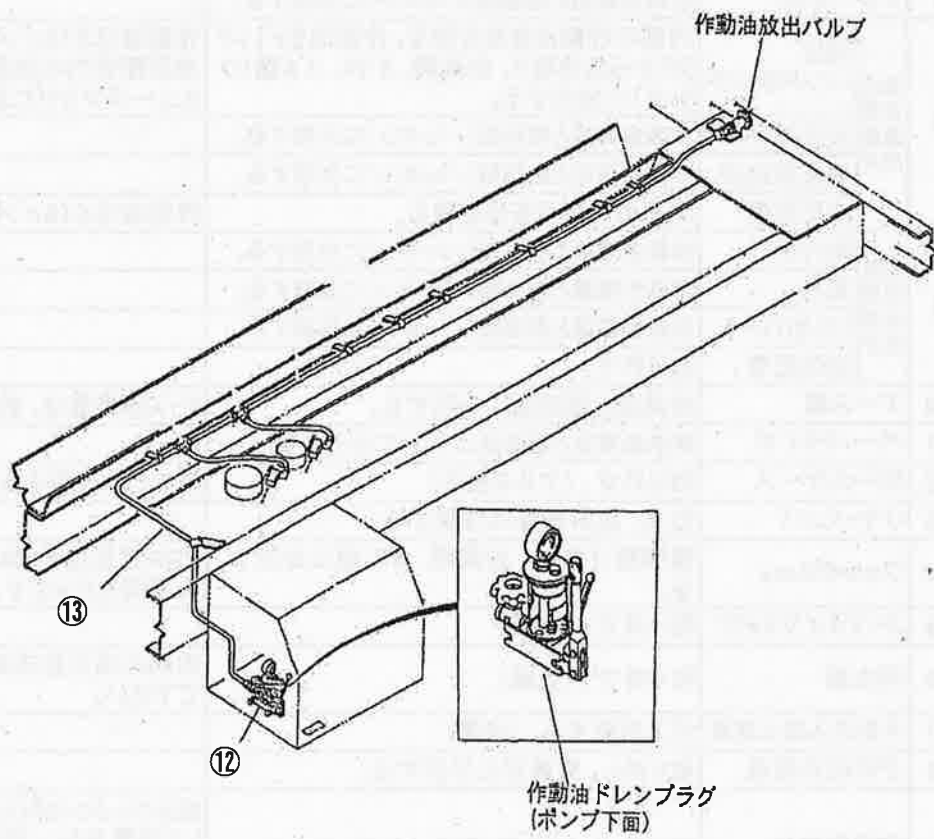
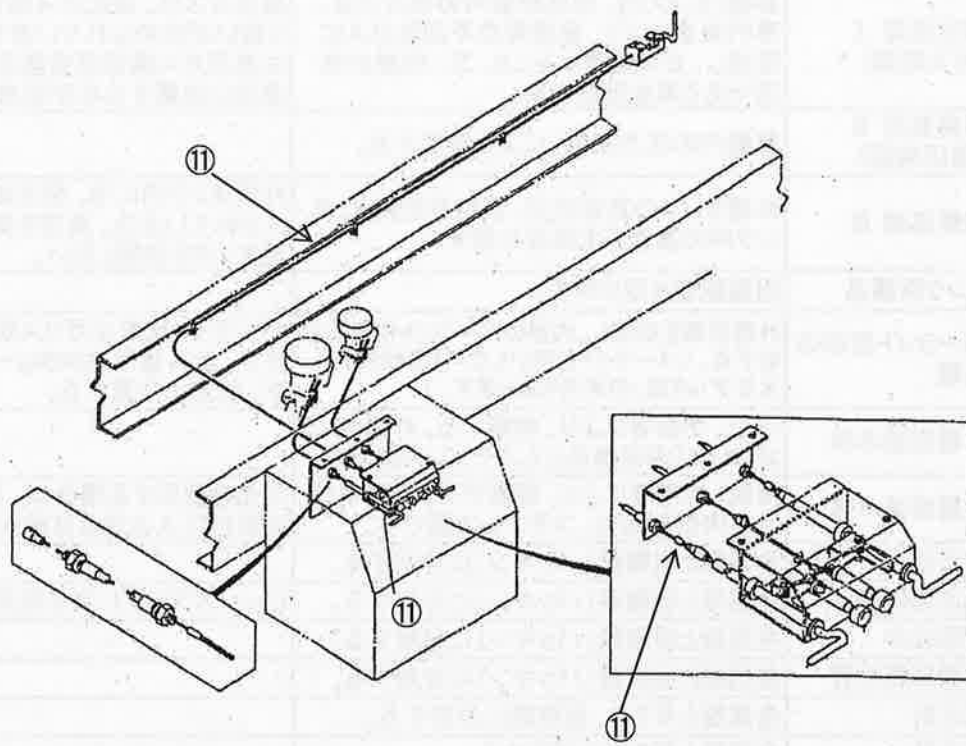
	品目名	解体方法	注意事項
	<u>事前処理 I</u> (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	<u>事前処理 II</u> (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	灯具類	金属類、非鉄金属類、樹脂類、ゴム類、電線類に分別する。	樹脂製灯具の場合のボディは「ポリプロピレン」、丸型灯具の場合のボディは「金属」です。レンズはいずれも「アクリル樹脂」です。
2	反射器・レンズ類	取り外す。(アクリル樹脂)	
3	バックブザー	金属類、樹脂類、ゴム類に分別する。	
4	トレーラソケット	非金属類とゴム類に分別する。	
5	プリカチューブ	金属に樹脂(塩化ビニール)をコーティングしたフレキシブルチューブ。	分離不能のため専門業者に委託して下さい。
6	電線管	取り外す。(金属類)	
7	分岐箱	金属類及びゴム類(パッキン)に分別する。	樹脂系の分岐箱もあります。
8	管押さえ	金属類及びゴム類に分別する。	
9	電線	取り外す。	電線の重量は約7kg。

1-8. ABS配線(全機種共通)

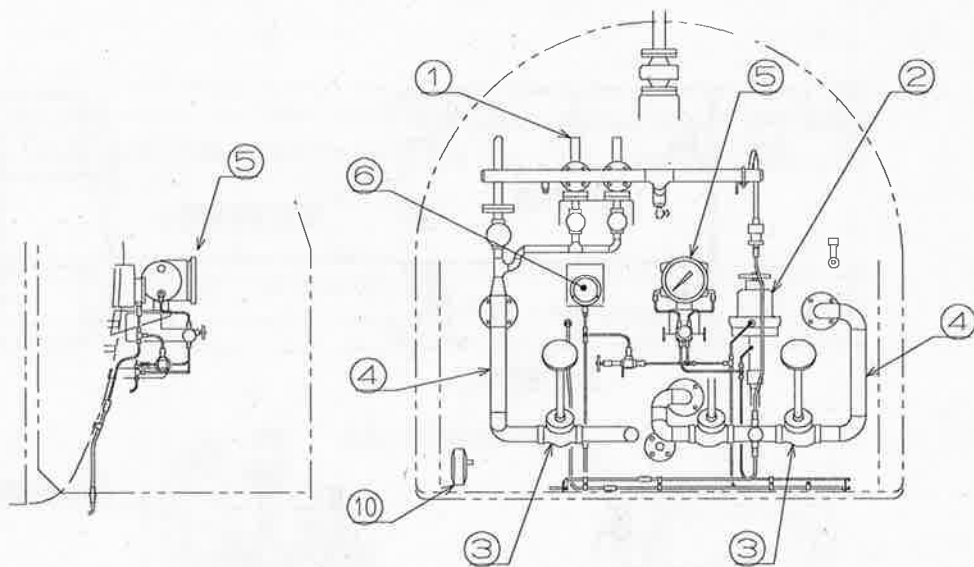
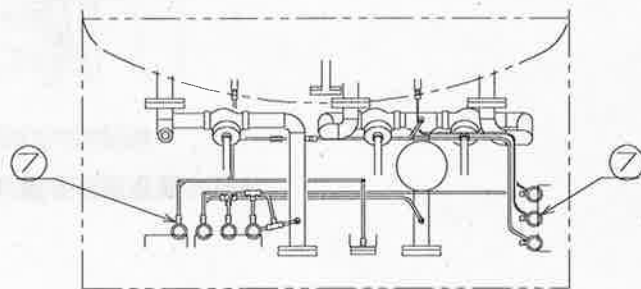
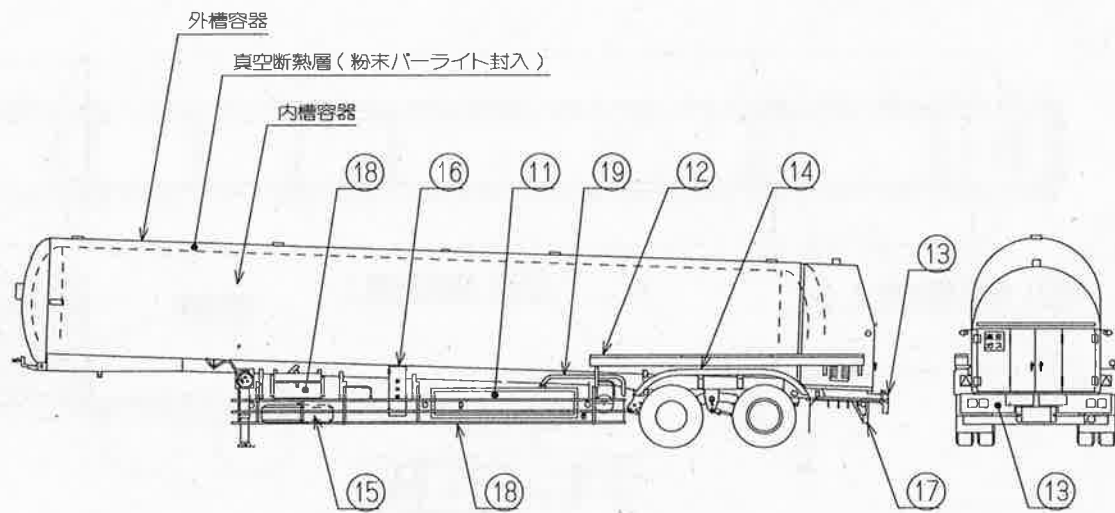
	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理 I (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理 II (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
【注意】高圧ガス保安法が適用されるトレーラに限り、必ず上記の「事前処理」が済んでいることを確認してから、下記の作業を行なって下さい。			
1	制御盤	非鉄金属類と樹脂類(制御機器、配線機器)及び電線類に分別する。	基本的には専門業者に委託して下さい。
2	リレーモジュレータ	非鉄金属類(アルミ合金)とゴム類(Oリング等)に分別する。	
3	ソケット	非金属類とゴム類に分別する。	
4	電源ケーブル	コネクタ(ナイロン樹脂)と電線に分別する。	電線重量は約1kgです。
5	センサケーブル	コネクタ(ナイロン樹脂)と電線に分別する。	電線重量は約0.5kgです。
6	コントロールバルブケーブル	コネクタ(ナイロン樹脂)と電線に分別する。	電線重量は約0.5kgです。
7	電線管	取り外す。(金属類)	
8	管押さえ	金属類及びゴム類に分別する。	

2. LPG(液化石油ガス)タンクトレーラ

	品目名	解体方法	注意事項
	<u>事前処理 I</u> (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換、又は水による置換を実施し、ガス処理すること。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。高圧ガスの処理は、高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理 II (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
	容器の開放	主要な附属品(安全弁、バルブ、配管、マンホール)を取り外す。	
	容器本体	溶断、切断等により、裁断する。容器本体は鉄、内部部品は鉄及びステンレス鋼です。	火気を使用する場合は、引火に注意する。容器内に入る場合は酸欠に注意する。
1	マンホール	金属類とアスベストシート(ガスケット)に分別する。	
2	安全弁	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
3	液面計	金属類、樹脂類、アスベスト(パッキン)に分別する。	
4	緊急遮断弁	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	フューズプラグに鉛を使用しております。
5	容器元弁	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
6	容器附属配管	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
7	温度計	金属類とガラスに分別する。	
8	圧力計	金属類とガラスに分別する。	
9	ブリーダ弁	非鉄金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
10	アース線	金属類と電線類に分別する。	アース線の重量、約1kg。
11	バルブ開閉用ワイヤ	金属類と樹脂類(アウターチューブ)に分別する。	
12	油圧 ハンドポンプ	内部の作動油をドレンプラグから抜き取り、金属類、ガラス、ゴム類(リング)に分別する。	作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。ポンプ及び配管内の油量は、約0.5L。ヒューズプラグに鉛を使用しております。
13	油圧配管	内部の作動油を作動油放出バルブから抜き取る。	作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。
14	リヤバンパ	灯具、反射器等は分別する。	
15	フェンダAssy	金属類、ゴム類に分別する。	
16	スペアタイヤキャリア	取り外す。(金属)	
17	消火器	取り外す。(金属)	内部の消火粉末処理は専門業者に委託して下さい。
18	大型突入防止装置	ガス溶断する。(金属)	
19	その他外装品	取り外し、材質別に分類する。	

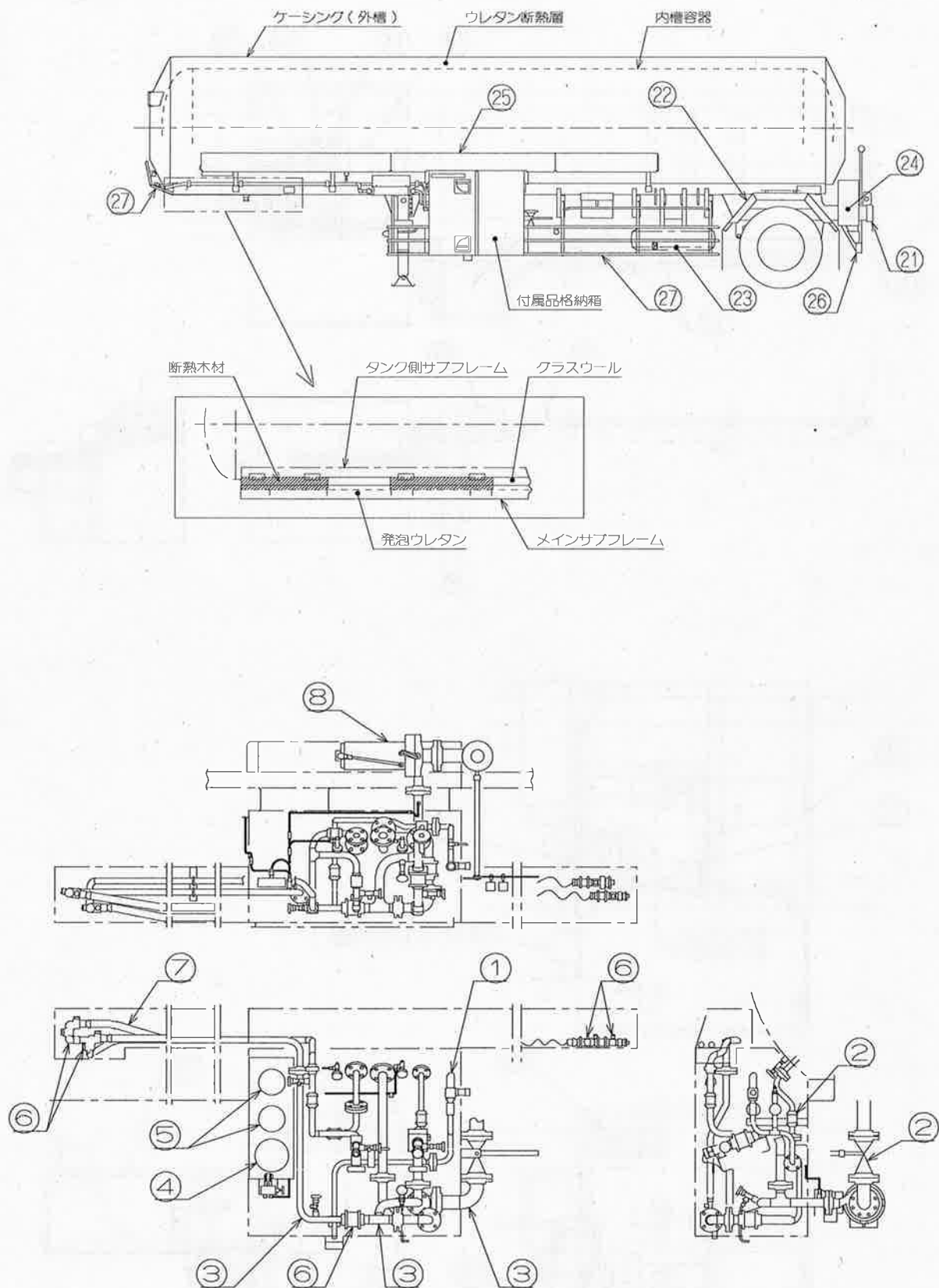


改A: 品目番号19を追加する。('06.2.3)



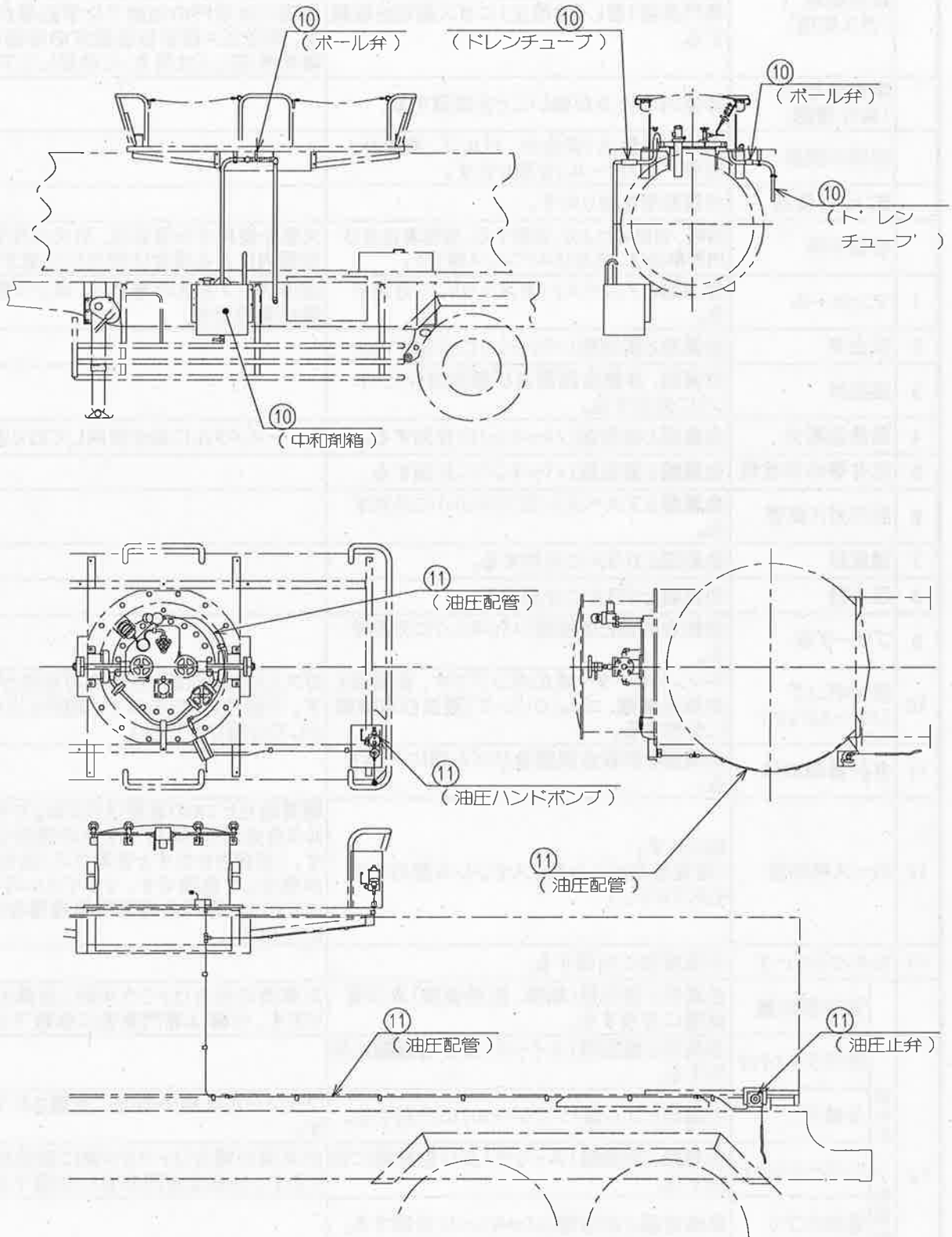
4. LCO₂(液化炭酸ガス)タンクトレーラ(ウレタン断熱タンク)

品目 番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理Ⅰ (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者により、窒素等の不活性ガスに置換し、ガス処理すること。又、内部が常温である事を確認する。	高圧ガスは、高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。LCO ₂ の処理は高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者に依頼する事が望ましい。
	事前処理Ⅱ (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
	タンク附属品	附属配管を取り外す。	
	ケーシング	溶断、切断等により、裁断する。ケーシングは、アルミニウム合金です。	
	断熱材	内タンク表面から発泡ウレタン断熱材を剥ぎ取ります。	発泡ウレタンは引火性物質です。火気に注意して処置下さい。処理は一般廃棄物として燃焼(ただし、特殊焼却炉)させるか若しくは埋め立てが可能です。使用量は約200kg。 【注意】
	内層容器本体	溶断、切削等により、裁断する。容器本体及び内部部品は、ステンレス鋼です。	
	サ ブ フ レ ー ム	溶断し、金属(SUS304)及びグラスウールに分別する。	グラスウールは燃える事がありますので、注意願います。処理はガラス陶磁器粉末として埋め立てが可能です。
		溶断し、金属(軟鋼)及び発泡ウレタン並びに断熱木材に分別する。	発泡ウレタンは、一般廃棄物として燃焼させる(ただし、特殊焼却炉)か若しくは埋め立て処理が可能です。【注意】 断熱木材は、一般廃棄物として、燃焼させるか若しくは埋め立て処理が可能です。
1	安全弁	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
2	容器元弁	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
3	容器附属配管	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
4	差圧計	金属類とガラス、樹脂類に分別する。	
5	圧力計	金属類とガラスに分別する。	
6	ボール弁等 弁栓類	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
7	ゴムホース	口金とゴムに分断する。	油圧用及び荷役用。ゴムは基本的にリサイクル不可能です。
8	キャンドモータポンプ	金属類と樹脂類(パッキン)に分別する。	
9	オイルクーラ	油、金属類、電動機、樹脂類(パッキン)に分別する。	電動機の処理は専門業者に委託して下さい。
10	油圧モータ	油、金属類、ゴム類(Oリング)及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
11	油圧カップリング等 弁栓類	油、金属類、ゴム類(Oリング)及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
12	油圧計	金属類とガラス類に分別する。	
13	油圧配管	取り外す。(金属)	作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。配管内の油量は約3Lです。
14	タイヤカップリング	金属類とゴム類に分別する。	
15	制御盤等 電気機器類	金属類とプラスチック及び電線類に分別する。	電線重量は、約10kg。

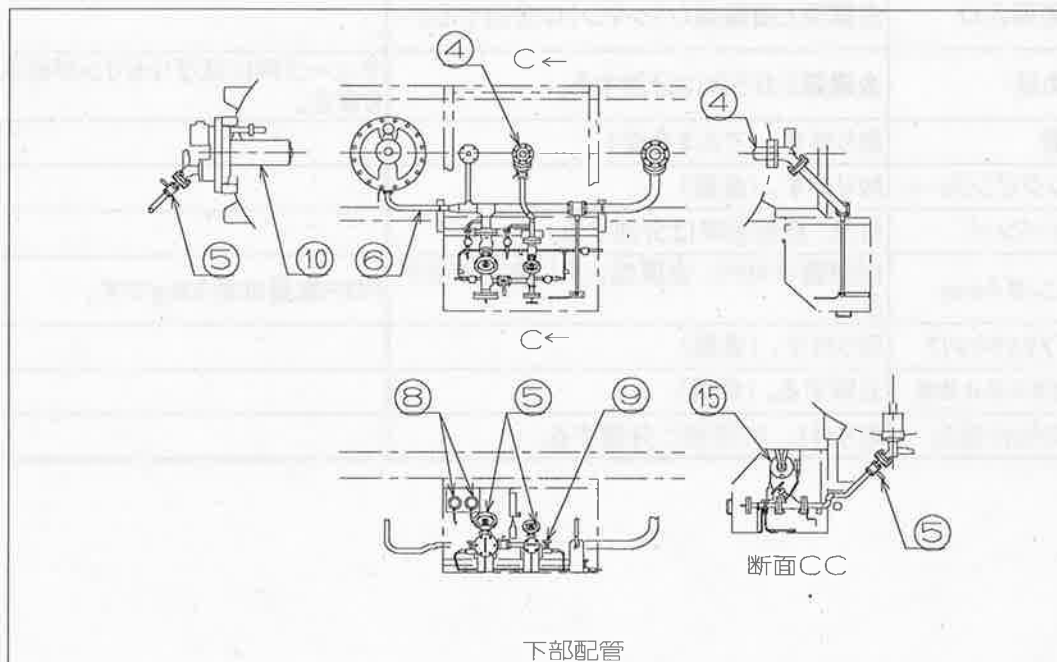
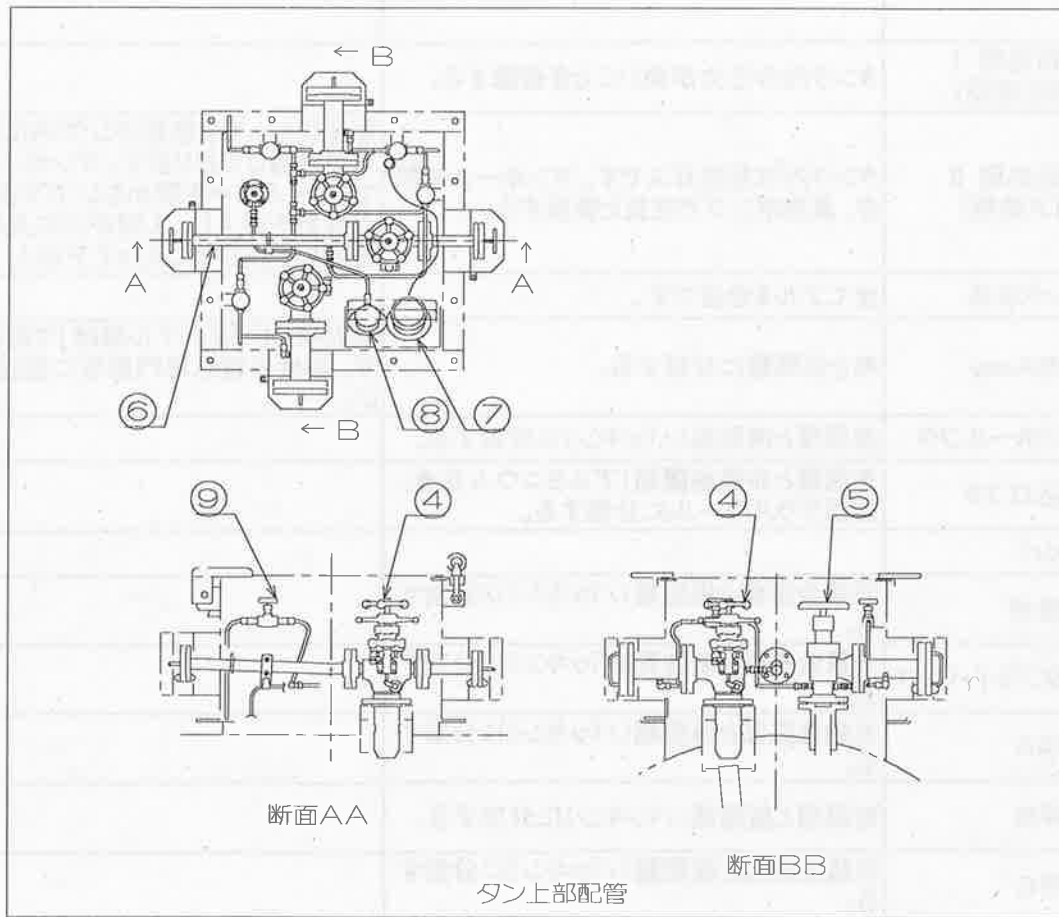


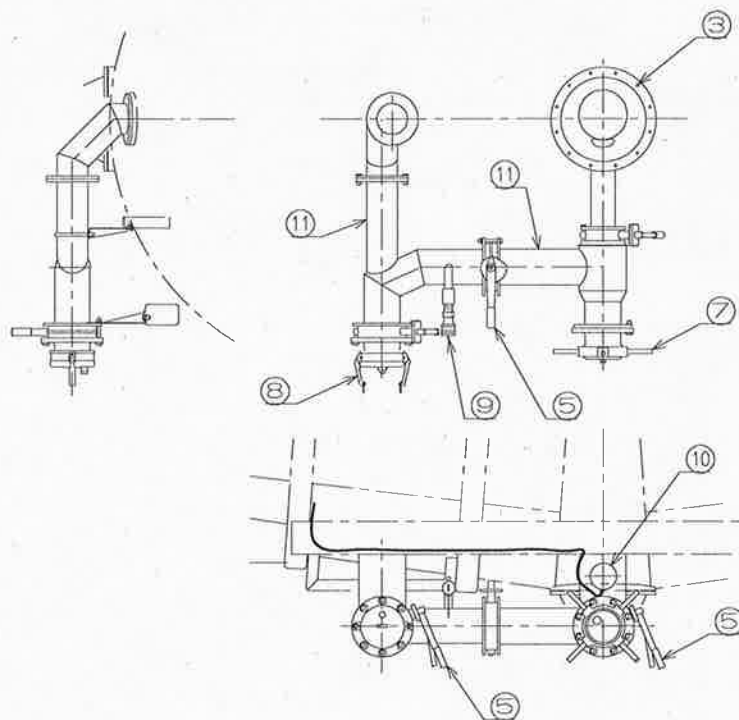
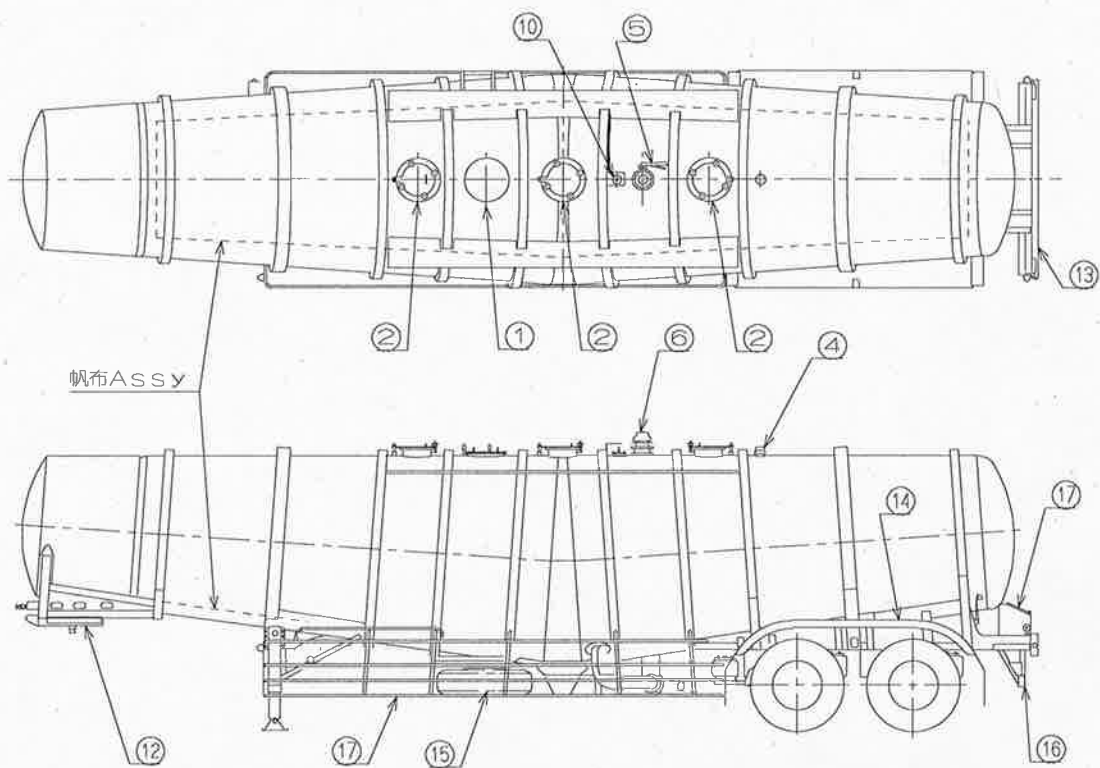
5. CL₂(塩素)タンクトレーラ

品目 番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理Ⅰ (ガス処理)	容器(タンク)内、附属配管内の残ガスは、専門業者(若しくは荷主)にガス処理を依頼する。	高圧の毒性ガスです。高圧ガス保安法によりその取り扱いが定められています。中和処理には専門の知識で化学処理が必要です。高圧ガス保安協会認定の容器再検査事業者(若しくは荷主)に依頼して下さい。
	事前処理Ⅱ (除圧確認)	容器内の圧力が無いことを確認する。	
	タンクAssy	シャシとタンクを固定するボルトを外し、タンクを切り離す。	
	シャシフレーム	走行装置、ブレーキ、電気装置等分離する。	各種装置の処理は全車共通を参照下さい。
	ケーシング	溶断、切断等により、裁断する。ケーシングは、アルミニウム合金です。	ステンレス製のケーシングもあります。
	断熱材 (グラスウール)	内タンク表面からグラスウールを剥ぎ取ります。	グラスウールは燃える事がありますので、注意願います。処理はガラス陶磁器粉末として埋め立てが可能です。
	内層容器本体	溶断、切削等により、裁断する。容器本体及び内部部品は、炭素鋼です。	
1	マンホール蓋	金属類とアスベスト(パッキン)に分別する。	
2	マンホール被い	金属類と非鉄金属類に分別する。	
3	安全弁	金属類と非鉄金属類及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
4	緊急遮断弁	金属類と非鉄金属類及び樹脂類(パッキン)に分別する。	ヒューズメタルに鉛を使用しております。
5	元弁等の弁栓類	非金属類と非鉄金属類及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
6	高圧ガス配管	取り外す。(金属)	
7	液取り出し管	マンホール蓋から溶断分離する。	
8	圧力計	金属類とガラスに分別する。	
9	ブリーダ弁	金属類と非鉄金属類及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
10	中和剤箱	取り外す。(金属)	苛性ソーダが約100L充填されております。アルカリ性液体のため、そのままでは下水処理出来ません。可燃性はありますが、直接手で触れると危険です。最寄の専門業者に処置を依頼下さい。
	ボール弁	非鉄金属類及び樹脂類(パッキン)に分別する。	
	ドレンチューブ	取り外す。樹脂製(軟質塩ビ)です。	軟質塩ビ重量は約1.5kgです。
11	油圧 ハンドポンプ	内部の作動油をドレンプラグから抜き取り、金属類、ガラス、ゴム類(リング)に分別する。	作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。ポンプ及び配管内の油量は、約0.7L。ヒューズメタルに鉛を使用しております。
	油圧止弁	非鉄金属と樹脂類(パッキン)に分別する。	
	油圧配管	取り外す。(銅合金)	内部の作動油を作動油放出バルブから抜き取る。作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。
12	リヤバンパ	灯具、反射器等は分別する。	
13	フェンダAssy	金属類、ゴム類に分別する。	
14	スペアタイヤキャリア	取り外す。(金属)	
15	消火器	取り外す。(金属)	内部の消火粉末処理は専門業者に委託して下さい。
16	塩素吸収剤 散布器(コロス)	取り外す。(金属)	内部の粉末処理は専門業者に委託して下さい。
17	大型突入防止装置	ガス溶断する。(金属)	
18	その他外装品	取り外し、材質別に分類する。	



	電線	取り外す。	電線の重量、約15～20kg。
	ブリカチューブ	金属に樹脂(塩化ビニール)をコーティングしたフレキシブルチューブ。	分離不能のため専門業者に委託して下さい。
15	アース線	金属類と電線類に分別する。	アース線の重量、約1kg。
16	油圧 ハンドポンプ	内部の作動油をドレンプラグから抜き取り、金属類、ガラス、ゴム類(リング)に分別する。	作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。 ポンプ及び配管内の油量は、約0.7L。 ヒューズメタルに鉛を使用しております。
	油圧止弁	非鉄金属と樹脂類(パッキン)に分別する。	
	油圧配管	取り外す。(銅合金)	内部の作動油を作動油放出バルブから抜き取る。作動油はオイルパン等で受ける。作動油は廃油として処理出来ます。
17	リヤバンパ	灯具、反射器等は分別する。	
18	フェンダAssy	金属類、ゴム類に分別する。	
19	スペアタイヤキャリア	取り外す。(金属)	
20	消火器	取り外す。(金属)	内部の消火粉末処理は専門業者に委託して下さい。
21	大型突入防止装置	ガス溶断する。(金属)	
22	その他外装品	取り外し、材質別に分類する。	





タンク底部右側配管